

山陽学園中期計画（平成 29 年～33 年）目次

- 1 計画期間
- 2 建学の精神と教育理念
- 3 学園全体に関わる課題
 - (1) 社会情勢、地域情勢に目を向けて
 - ① グローバル化への対応
 - ② 地域との連携・地域貢献
 - (2) 教育活動について
 - ① アクティブラーニングの推進
 - ② スポーツと文化の振興
 - ③ アイデンティティの確立
 - (3) 学園の喫緊の課題
 - ① 学生・生徒・園児の確保
 - ② “学園力”の向上
 - ③ 広報活動の強化
 - ④ 危機管理体制の強化
- 4 大学・短期大学・大学院
 - (1) 教育の充実
 - ① 教育目標
 - ② 各学部学科における教育目標
 - (2) 多様な学生の受入れ
 - (3) 研究の充実
 - (4) 学生支援の強化
 - (5) 組織体制の改革
- 5 中学・高校
 - (1) 男女共学への移行
 - (2) 人間性を育む学習環境
 - (3) 中高一貫教育による進路実現
 - (4) 各コースにおける目標
 - (5) 山陽学園大学・短期大学への進学
 - (6) 多様な能力の伸長
 - (7) 男女共学教育への推進
- 6 短期大学附属幼稚園
 - (1) 教育目標
 - (2) 教育の充実等
- 7 財政計画
- 8 施設整備
- 9 学園資料館の設置
- 10 同窓会・PTAとの連携
- 11 管理・運営体制

山陽学園中期計画

= 「名門山陽」の復活をめざして =

学園創立から 130 余年が経過し、男女共同参画社会の進展や少子化の進行など社会情勢は大きく変化してきた。こうした環境変化と学園の将来の発展性を見据え、中学校・高等学校は 2020 年から男女共学校へと移行する。先行して共学化した大学・短期大学を含め、調和のとれた男女共学教育を推進することで共生社会の実現に寄与していく。そして、私立学園としての矜持をもち、アイデンティティを明確にし、学園の歴史と伝統を継承しながら社会の潮流を見据えた不断の改革を行うとともに、一人ひとりを大切にする教育活動を通して有為な人材を育成し、地域社会からの信頼を確かなものにするこゝで、学園の再生を図る。

全ての教職員は、学園内外での研修や情報交換の場に積極的に参加し、専門的知識や業務遂行能力を磨くとともに、幅広い分野の方々との交流を学園の発展につなげるよう努める。

1 計画期間

2017年～2021年

2 建学の精神と教育理念

山陽学園の設立趣旨書にある「男女は車の両輪である」という建学の精神と、「愛と奉仕」の教育理念は、本学園の教育のバックボーンとして受け継がれており、これを実現させる教育に専念することを全ての教職員が共有して行動する。

3 学園全体に関わる課題

(1) 社会情勢、地域情勢に目を向けて

① グローバル化への対応

- ・社会、経済のグローバル化を踏まえ、日本人（留学生は出身国人）としてのアイデンティティを明確にし、人と人、地域と地域のグローバルな交流の担い手を育成する。このため、外部検定等も活用して学生・生徒の外国語能力を高めるとともに、わが国や地域の歴史・文化について理解を深める教育を推進することによって、郷土愛と国際感覚を備えた人材を養成する。
- ・大学では、共生・グローバル推進センターを中心にして学生の海外体験の機会拡充を図り、さらに大学間協定に取り組み、日本語教育実習、単位互換、ダブルディグリー等を推進する。

② 地域との連携・地域貢献

- ・公開講座や文化セミナーの実施などにより、学園のもつ知的財産の地域社会への還元に努める。
- ・ボランティア活動の推進のため希望者の登録制度を活用し、地域貢献を推進する。
- ・大学に「ボランティア支援・地域連携推進センター」を設置し、市町村との相互協力体制のもとで連携事業を積極的に推進する。
- ・学園の地元である平井地区、門田界隈の教育機関や自治会との交流を積極的に行う。

(2) 教育活動について

① アクティブラーニングの推進

- ・講義形式の授業改善に加えて、学生・生徒が課題を見つけ、その解決策について自ら学び、結論を導き発信するアクティブラーニングを大学・短大、中高ともに積極的に推進する。

② スポーツと文化の振興

- ・学力の向上に加え、多様なスポーツや文化活動を通じて人間としての幅を広げる教育に力を入れる。
- ・全ての学生・生徒を何らかの部活動（サークル活動）に参加させるよう努める。

③ アイデンティティの確立

- ・私学としての山陽学園の建学の精神や教育理念を教職員、学生・生徒など全ての関係者が共有し、誇りとするように努めるとともに、これらを定着させる活動を行う。
- ・校歌、校章、スクールカラーなどをあらゆる機会でも前面に出して、山陽学園の象徴として活用するとともに、学園への帰属意識醸成の縁とする。

(3) 学園の喫緊の課題

① 学生・生徒・園児の確保

- ・少子化が進行する中で定員確保を至上命題と認識し、学生等募集担当者は学園を背負った思いで募集活動等に当たる。
- ・大学・短期大学では、学生募集の第一義的責任は、学部長、学科長にあることを明確にする。
- ・現役の学生・生徒、保護者、同窓生、外部の支援者の協力を得る。
- ・幼稚園から大学院までの総合学園化を目指し、共通する理念の下に生徒を年少時から系統的に育成する方策を検討する。

② “学園力”の向上

- ・大学、中高をはじめ、同一学園において教育や人事交流などあらゆる面で連携を強化し、学園が有する教育資源を相互に最大限に活用するよう努める。
- ・山陽学園高校から山陽学園大学・短期大学への進学者を増やし、総合学園としての充実を図る。

【数値目標】 高校から大学・短期大学への内部進学者を当面 50 名以上にする。

③ 広報活動の強化

- ・山陽学園の歴史や伝統、普段の教育活動をタイムリーに発信し、学園の存在感を社会へアピールする。
- ・学生募集のための広報に加えて、学園のイメージアップのための広報を戦略的に推進する。
- ・平素からマスメディアとの連携を密にし、報道として取り上げられるよう学園内情報の創造と加工に努める。

④ 危機管理体制の強化

- ・大震災をはじめ、あらゆる自然災害を想定し、未然の被害防止策、発生時の対応などを明確にして訓練を実施する。
- ・学生・生徒に関わるいじめに対して一人ひとりの教職員が当事者能力を持って迅速に対応するとともに、教職員間の緊密な連携のもと学校全体で組織的に対応する。
- ・ハラスメントの防止や各方面からの苦情・意見等への適切な対応など、教育や人権に関わ

る諸問題に的確に対応する。

- ・ 学園が保有する情報の漏洩や外部からのサイバー攻撃等に対応するため、情報セキュリティ対策の強化と教職員の研修に努める。

4 大学・短期大学・大学院

(1) 教育の充実

① 教育目標

これまでの経験が通用しにくくなった時代にあって、新たな課題に対応しながら地域社会の発展に貢献するための専門的知識・技能を修得させるとともに、人生を生き抜くための思考力や判断力、そしてコミュニケーション能力などを身に付ける人間教育を実践する。

- ・ 平素の授業や学生指導を通して、豊かな人間力を養う。
- ・ 入学前教育から就職後のフォローアップまで、個々の学生に応じたきめ細かな指導を行う。
- ・ 実社会で即戦力となり得るための社会人基礎力を修得させる。

② 各学部学科における教育目標

ア 総合人間学部

- ・ 専門教育の充実や海外研修等の推奨により、国際化社会にふさわしい言語能力と異文化理解力を備え、民族等の違いを超えた真の人間理解、国際理解、国際協力に貢献できる人材を養成する。
- ・ コース制の導入により、人の意識や態度、行動等を心理学的に理解し仕事や生活の場で活かすことのできる人材や、子供の心理を理解し発達障害等の問題に対応できる知識と技能を持った人材を育成する。

イ 地域マネジメント学部

- ・ 理論と実践の往還により知識・技能を着実に修得し、地域の企業や団体、組織の中核となって新ビジネスの創出や産業振興、地域活性化のために主体的に活躍できる地域のリーダーを養成する。

ウ 看護学部

- ・ 入学前教育、初年次教育を充実して専門教育への円滑な導入を図るとともに、キャリア教育、国家試験対策を含めた系統的学修により知識・技能を確実に修得させ、高い倫理観を持ち質の高い看護を提供できる看護専門職者を養成する。

エ 助産学専攻科

- ・ 専門教育に加え品性を高める教育等を充実し、豊かな人間性と幅広く確かな知識・技術を兼ね備え、地域社会において母子保健に貢献できる助産師を養成する。

オ 大学院看護学研究科

- ・ 活発な研究活動等を通して高度な専門知識・能力を修得し、看護学の発展と地域の保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材を養成する。

カ 短期大学食物栄養学科

- ・ 地域連携活動等を活用して「食」を通して社会に貢献できる喜びを体験させるとともに、高い教養と専門的な知識・技能を身につけ、人々の健康の保持・増進に貢献できる栄養士を養成する。

キ 短期大学幼児教育学科

- ・ ピアノ演奏や文章作成など保育者に必要な実務能力を確実に修得させ、高い目的意識を

持って一人ひとりの子供の発達保障ができる保育者を養成する。

(2) 多様な学生の受入れ

収容定員を充足することを最重点とし、様々な学科・課程の高校生、留学生、社会人など多様な資質・能力を有する学生の受入れに努める。

- ・ターゲットを絞った高校訪問、オープンキャンパスの工夫、戦略的な広報活動を行う。
- ・県内の主要な高校や外国語専門学校との連携を推進し、入学生の増加につなげる。
- ・空路のある沖縄県をはじめ広域交通の利便性を意識した募集活動を行い、県外学生の増加を図る。
- ・新設する地域マネジメント学部のPRなどにより、男子学生の増加を図る。
- ・新設する短期大学「3年コース」や長期履修制度、科目等履修生度をPRし、社会人入学者の増加につなげる。
- ・大学入試改革も踏まえ、多様な資質・能力を有する学生を受入れることができるよう、入試制度の見直しを行う。

【数値目標】全ての学部学科で入学定員100%を確保する。

(3) 研究の充実

本学教育の質を高めるとともに、教員一人ひとりの資質と活力の向上を図るため、研究活動の充実を推進する。

- ・学内競争的研究費の活用や科研費等の外部資金の獲得、さらには学外共同研究の推進などにより、研究活動の活性化を図る。
- ・学会等での論文発表や著作を増やすとともに、学内紀要「山陽論叢」等の充実に努める。さらに、パブリシティを積極的に活用して研究成果を広く一般に発信する。
- ・行政機関や公的機関での活動を積極的に推進する。

(4) 学生支援の強化

本学の最大の特長は、小規模校であるからこそ可能な“学生に対するきめ細かな支援”であり、全ての教職員が自覚して取り組み、学生や保護者、高校、企業等からの信頼を勝ち取る。

① 個々の学生に応じたきめ細かな学修・生活支援

- ・基礎学力を補うリメディアル教育や初年次教育、就職活動をサポートする講座を充実する。
- ・アドバイザー制度、クラス顧問制度の実効性を一層高めるため、日常的に学生と積極的なコミュニケーションを図る。
- ・学生相談室の機能を十分活用する。
- ・全ての人が障害の有無にかかわらず学園内で自立した生活が送れるよう、学園関係者の意識を高める。

【数値目標】中途退学、除籍者割合を3%以下にする。

② 就職支援の強化

- ・キャリアセンターと学科アドバイザー等との緊密な連携により、計画的で機動的な就職支援を行う。
- ・キャリアセンターによる就職対策講座の充実と、各種検定・資格取得などのキャリアアップを支援する。
- ・卒業生の就職先をこまめに訪問し、卒業生のフォローアップと就職先企業との信頼関係の

構築を図る。

【数値目標】全ての学部学科の就職率を100%にする。

(専門職への就職率は、食物栄養学科80%以上、幼児教育学科95%以上にする。)

(5) 組織体制の改革

- ・新設の地域マネジメント学部を確実に軌道に乗せる。
- ・時間的、経済的なゆとりをもって学べる環境を提供するため、短期大学に3年コースを開設する。また、3年コースの開設に合わせ、食物栄養学科を「健康栄養学科」に、幼児教育学科を「こども育成学科」に名称変更する。
- ・総合人間学部や短期大学の在り方、さらには新しい学部の可能性について検討し、将来像を早急に固める。
- ・大学、短期大学の教育内容の充実と運営強化のため、組織体制の不断の見直しを行う。

5 中学・高校

(1) 男女共学への移行

学園の創立から130余年が経過した現在、人々の意識と社会環境は大きく変化してきた。今後、男女共同参画や多様性がますます重視される中、本学の伝統と教育力を男女共学教育に活かし、社会の変化に対応し幅広く活躍できる人材を育成する。

共学への移行は2020年4月とし、学校名は山陽学園中学校、山陽学園高等学校とする。

(2) 人間性を育む学習環境

- ・コミュニケーションの基本である挨拶の励行を徹底する。このため、挨拶運動等の推進とともに教職員が自ら率先して挨拶を励行することにより、生徒への浸透を図る。また、気軽に爽やかな会釈ができる生徒を育成する。
- ・全ての生徒が他者の立場を尊重し、痛みを理解できるよう指導に努め、「体罰・いじめアンケート」等の実施により、いじめの無い学校にする。
- ・生徒の成長を促進し、対人関係の改善や社会的適応力を向上させる。また、一人ひとりの生徒が居場所を見つけることのできる環境(クラス、部活動、委員会、ボランティア、相談室、寮など)づくりをすすめる。
- ・礼法教育の充実を図り、礼儀正しく品性の高い人材の育成をめざす。
- ・広い視野と国際感覚を身につけ、グローバルに活躍できる人材を育成するため英語教育(英検対策、ネイティブ教員の増加、海外研修)の充実を図る。

(3) 中高一貫教育による進路実現

- ・6年間を基礎力養成期、学力充実期、進路飛躍期の2年ごとに分けた中高一貫教育を確立する。
- ・大学入試改革に関する情報を収集し、生徒・保護者へ情報発信を行うとともに、大学入試新テストへの対策指導に取り組む。

(4) 各コースにおける目標

① 総合進学コース

- ・総合進学コースでは、学業、部活動、生徒会活動、ボランティア活動などさまざまな活動に取り組みながら自分の目標とする進路実現を目指す。

【数値目標】4年制大学進学率 50%以上とする。

② スーパー特別進学コース

- ・全国模試平均偏差値 65 以上を目標とし、難関国公立大学進学を目指す指導体制を充実させる。一人ひとりの能力を最大限引き出すことで高度な進路実現を達成する。

【数値目標】岡山大学以上の難関大学への合格率 50%以上とする。

③ エクセル特別進学コース

- ・エクセル特別進学コースでは、大学入試新テストに対応すべく独自の教育活動を充実させる。一人ひとりの志望に応じた細やかな進路指導を行い、進路実現を達成する。また、長期留学の経験を活用して難関大学への合格を目指す。

【数値目標】4年制大学進学率 100%とする。

④ Musicコース

- ・Musicコースの類型ごとの特徴ある実技レッスンを活かして、専門分野のみならず、多方面で活躍できる生徒の育成を図る。普通科の科目履修も重視した指導により、大学進学率も向上させる。

【数値目標】4年制大学進学率 40%以上とする。

⑤ 中学校

- ・特別進学コースは、先取り・発展学習を取り入れて確かな学力を育成する。3年時よりスーパー特別進学コースに進級し、6年時に難関国公立大学への合格を目指す。
- ・総合コースは、エクセル、スタンダードの2つのスタイルに入学時より分かれ、細やかな指導を行う。エクセルでは特別進学コースに準じて応用力や問題解決能力を育て、国公立大学や私立大学への進学を目指す。スタンダードでは、英語、音楽、部活動など自分の個性を磨き、多様な進路を目指す。

(5) 山陽学園大学・短期大学への進学

- ・中学・高校の一貫教育のメリットを活かすとともに、山陽スピリットを身につけることにより、同じ学園内の大学・短期大学への進学を薦める。

【数値目標】山陽学園大学・短期大学への進学者を在籍者数の 25%以上とする。

(6) 多様な能力の伸長

- ・各種の検定試験、芸術やスポーツ、生徒会や部活動、ボランティア、海外研修などに取り組み、生徒の多様な能力の伸長を図るとともに、高度な指導ができる教員の育成を図る。

(7) 男女共学教育の推進

①目指す教育等

- ・引き続き、本学園の「男女は車の両輪」とする建学の精神と「愛と奉仕」の教育理念に基づく全人教育を推進する。
- ・幅広い教養と国際人としての世界観・歴史観を身に付け、多様な人々と協調し、様々な場面でリーダーシップを発揮できる人材を育成する。
- ・生徒一人ひとりの習熟度に応じた学習指導と、生きた英語教育、地域や山陽学園大学等と連携した探究活動を通して、進学実績の一層の向上を図るとともに、生徒の多様な能力の伸長を図る。

②コース編制等

- ・中学校には、「特別進学コース」と「進学コース」、高等学校には、「特別進学コース」と「進学コース」、「Music コース」を設ける。
- ・中学校の特別進学コースは高等学校の同コースへつながる6年一貫コースとし、先取り・発展学習等を取り入れて、より高い学力の定着を図る。

③特別活動

- ・運動部だけでなく文化部を充実し、授業と部活動の連携により生徒の多様な能力の伸長を図る。

④施設整備等

- ・男子トイレの設置、自習室やICT環境の整備など、男女共学化と教育内容充実のための施設整備を推進する。

⑤生徒指導

- ・共学化への移行段階においては、従来の子女生徒と新たに入学する男子生徒の間の意識のギャップ等から混乱が生じかねないことから、共学化に向け円滑に移行できるようきめ細かな生徒指導を行う。

6 短期大学附属幼稚園

(1) 教育目標

自然に恵まれた環境を活かして、心身ともにたくましく、心豊かな子どもを育てる。

(2) 教育の充実等

- ・歯磨き指導や野菜作り、お茶会など、大学や地域、家庭などと連携した多様な学びの場を通して、園児に心の通う人間関係の素地を養う。
- ・次期学習指導要領の動向なども踏まえ、英語学習を充実する。
- ・幼保連携型認定こども園への移行を視野に、2歳児保育、預かり保育時間の延長などを進める。
- ・短期大学、大学看護学部の実習園としての役割を十分果たせるよう園児数を確保する。
- ・外部委託により弁当を給食化する。

7 財政計画

これまで教育活動キャッシュフローベースで黒字化することができた。

今後、短期大学「3年コース」の新設と中学校・高等学校の共学化を学生生徒数の増加につなげ、定員を十分確保して納付金収入及び補助金収入の増額を図るとともに、経費の可否を精査し、事業活動収支差額比率が5%を超えることを目標とする。

〈中期財政計画試算にあたっての在籍者見通し〉

(人)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	収容定員
大 学	609	641	705	760	830	842
短 大	236	236	250	265	280	360
幼 稚 園	120	120	120	120	120	120
高 校	539	545	585	595	600	600
中 学	178	189	206	210	210	210
計	1,682	1,731	1,866	1,950	2,040	2,132

〈財政計画の基礎となる人件費率見通し〉

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
学園全体	70.4%	68.9%	64.9%	63.8%	61.4%
大 学	69.5%	66.0%	60.0%	58.4%	55.2%
短 大	84.1%	85.1%	79.7%	77.1%	73.1%
幼 稚 園	51.5%	52.9%	53.6%	54.4%	55.1%
中学・高校	67.7%	68.2%	67.1%	67.1%	66.9%

人件費比率＝人件費／経常収入

8 施設整備

学園の快適な学習環境を確保するため、財政状況や社会情勢を考慮しながら施設整備計画を策定し、着実な遂行に努める。

9 学園資料館の設置

学園資料の収集、整理、保管を行う学園資料館を設置し、山陽学園の歴史の研究のみならず学園周辺の歴史文化や岡山の女子教育の研究に寄与する。

10 同窓会・PTAとの連携

学園の諸活動全般に関して、それぞれの同窓会・PTAと積極的な交流を図る。

11 管理・運営体制

組織マネジメントの観点に立って、全教職員が目標設定を行い、実現に努めるとともに、外部評価を取り入れながら進捗状況を管理する。